

2023 年度事業報告

【放射能測定事業】

■ 海洋調査について

東京電力は、2023 年 8 月 24 日に福島第一原発敷地内のタンクに溜まり続けている放射性物質を含む処理汚染水の海洋放出を実行しました。このことは、世代を超えて続く甚大な環境汚染の始まりです。たらちねでは、福島第一原発事故直後から海洋に漏れ出している放射性汚染水の影響を知るため、2015 年から その沖合 1.5 km 地点でのサンプリング調査を実施してきました。そして、その継続調査とデータの積み重ねは、この度の処理汚染水放出後の汚染推移を科学的に知るために役立つものとなりました。

今年度は、放出前 2 回と放出後 1 回の調査を行いました。この調査は人手や資金面の問題から、私たちだけでは実施困難なものですが、たらちねのご支援者や地元漁協はじめ、毎回多くの人々の協力を得て現在まで継続することが叶っています。

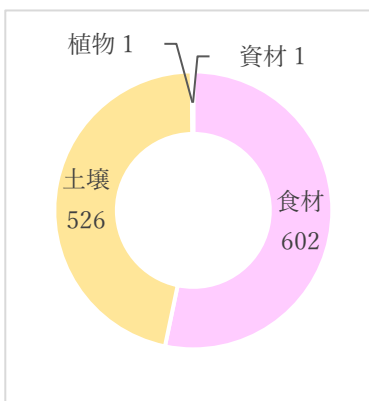
■ その他の測定について

2023 年度の食材測定は、依頼検体の他に、セシウム値が比較的高めである山菜類・きのこ類など、採取から食卓に上がるまでの時間が短く、迅速に情報提供しなければならないものの測定を行いました。また、子どもたちの健康を守るために、海水浴場の海砂や公園などの空間と土壌の環境測定も行いました。被災地の母親たちは、たらちねの情報を見て子どもの遊び場を選ぶ人も多く、「〇〇公園の測定をしてほしい」など積極的に連絡をくださることもあります。今年度は、40 箇所の公園測定を実施しましたが、その中の 1 箇所が高濃度に汚染されていました。直ちにいわき市の除染対策課に情報共有し、その地点の除染を実施してもらいました。

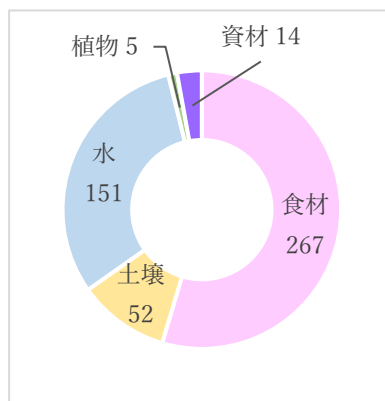
■ 2023 年度測定件数

合計 1840 件(セシウム 137、セシウム 134、ストロンチウム 90、トリチウム)

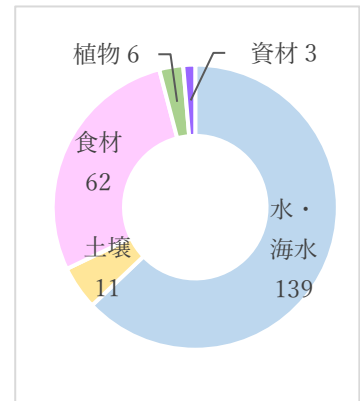
Nal シンチレーション測定器による測定
(セシウム 137、セシウム 134)
総測定件数：1130 件



ゲルマニウム半導体測定器による測定
(セシウム 137、セシウム 134)
総測定件数：489 件



液体シンチレーションカウンターによる測定
(ストロンチウム 90、トリチウム)
総測定件数：221 件



■ クロスチェックの実施

東京電力が処理汚染水の放出を開始し、たらちねの測定の意味と責任がこれまで以上に重くなることを実感し、2023年度はクロスチェックにも力を注ぎました。

クロスチェックとは、たらちねの測定が信頼できるものであると証明するためのテスト測定のことです。確認や検証の精度や信頼性を高める手法の一つで、値のズレや誤検出がない事を確認するため行います。その結果から、たらちねの測定が正確であることを科学的にも社会的にも示すことができました。

○2023年度クロスチェックの結果

・放射性セシウムクロスチェック

京都大学複合原子力科学研究所のゲルマニウム半導体検出器とたらちねのゲルマニウム半導体検出器とのクロスチェックは、同じ試料を測り比べる方法で毎月クロスチェックを実施しています。これまで誤差の範囲で一致する良好な結果が得られています。

また、公益財団法人 日本分析センターが実施している「放射能測定技能試験」(RacMAL-PT-2023)に参加しました。値を知らされていない玄米粉試料をたらちねのゲルマニウム半導体検出器で測定し、その分析結果から信頼性が満足なものであるとする評価 A (Accept) を取得しました。

以下のデータは、その際の内容です。

緑枠の「中央値」が分析センターの値で、赤枠の「報告値」がたらちねの分析結果です。

Cs-137 (セシウム 137 のみ) も放射性 Cs (セシウム 137 とセシウム 134 の合算値) も誤差の範囲内で一致しています。

核種	中央値		報告値		zスコア	z評価	Enスコア	En評価
	放射能濃度	NIQR	放射能濃度	計数誤差 (合成標準不確かさ)				
Cs-137	51.4	1.67	52.6	0.92	0.7	A	0.3	A
放射性Cs	52.3	1.67	53.5	0.98	0.7	A	0.2	A

・ストロンチウム 90 のクロスチェック

福島第一原発沖の同一箇所で採取した海水を、クロスチェックのため、日本分析センターに測定依頼をしました。たらちねは 0.0009Bq/L、日本分析センターは 0.0007Bq/L で、誤差の範囲で一致しました。

試料名	採取日	採取場所	測定機関	Sr-90放射能濃度 (Bq/L)
海水	2023年8月23日	福島第一原発沖D	いわき放射能市民測定室たらちね	0.0009 ± 0.0003
			公益財団法人 日本分析センター	0.0007 ± 0.00008

・トリチウムのクロスチェック

大熊町の同一箇所で採取した海水を、クロスチェックのため、日本分析センターに測定依頼をしました。たらちねは 0.16Bq/L、日本分析センターは 0.13Bq/L で、これも誤差の範囲で一致しました。その他、ALPS 処理汚染水放出中に、東京大学の小豆川勝見氏とともに福島第一原発北側敷地境界付近の海水を採取し、それぞれのラボで測定を行いました。たらちねは 1.01Bq/L、小豆川氏は 1.03Bq/L

で、誤差の範囲で一致しました。

試料名	採取日	採取場所	測定機関	トリチウム放射能濃度 (Bq/L)
海水	2023年10月17日	双葉郡双葉町細谷	いわき放射能市民測定室たらちね	1.01 ± 0.06
			東京大学小豆川勝見ラボ	1.03

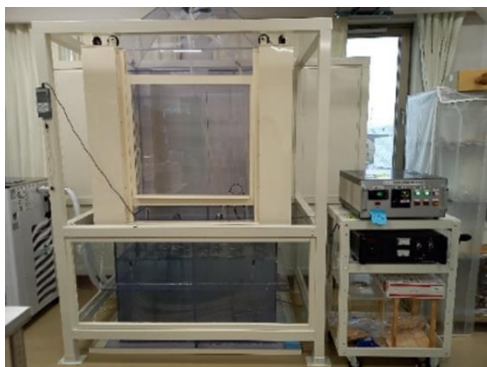
・その他核種(二酸化マンガン吸着捕集法)

福島第一原発から流される処理汚染水の中身は、トリチウムだけではなくありません。東京電力が発表しているだけで64核種あります。その中のトリチウムと放射性炭素 14 が他核種除去装置で取り除くことができないものです。たらちねでは、さまざまな放射性核種を吸着し測定する、二酸化マンガン吸着捕集法による測定も行っています。これらも日本分析センターに同じ方法で測定依頼し、クロスチェックを行いました。試料は、福島第一原発沖の同じ場所で採取した海水を使用し、結果はどちらの測定でもすべての核種で検出限界以下となりました。

分析場所	核種	Mn54	Fe59	Co60	Zn65	Nb94	Ru106	Ce144
たらちね		ND(<0.0014)	ND(<0.0058)	ND(<0.0014)	ND(<0.0031)	ND(<0.0011)	ND(<0.013)	ND(<0.01)
日本分析センター		ND(<0.0017)	ND(<0.0069)	ND(<0.0017)	ND(<0.0034)	ND(<0.0015)	ND(<0.017)	ND(<0.013)

○トリチウム 電解濃縮槽の導入

ALPS 処理汚染水の海洋放出の決定などを受け、より多くの水試料のトリチウムを分析する必要性が生じ、これまで運用してきた「トリピュア」だけでは、前処理が追いつかなくなりました。新たに、一度に多くの試料を電解濃縮できる「電解濃縮槽型の濃縮装置」を導入しました。電解濃縮槽型は、トリピュアと比べて作業工程が多く、操作に熟練が要するため、現在試行錯誤をしながら試験運転を行っています。



「トリピュア」と「電解濃縮槽型の濃縮装置」のメリットとデメリットについて説明します。

■メリット

- ・1度に8試料が電解できる。10日間程度かかるが、トリピュアよりも効率がよい。
- ・トリチウムの残留率がやや高いとされている。

■デメリット

- ・酸による電極の洗浄や試料に電解質を加えたり、濃縮後に蒸留が必要だったりなど、作業工程が多く、操作に熟練した技術がいる。
- ・水素ガスと酸素ガスが同時に発生するので、安全性に配慮した操作が必要となる。

○海洋調査結果(福島沿岸)

東京電力は、2023 年 8 月に福島第一原発構内のタンクに貯蔵されている ALPS 処理汚染水の海洋放出を開始しました。下の図は、東京電力が 2021 年 11 月に発表した放射性物質の拡散シミュレーションです。それによると、海洋放出された処理汚染水は海流の関係で、沖合ではなく、陸地に沿って南北に流されていく可能性が高い結果になっていました。

そこで、たらちねでは、海洋放出された汚染水の行方をより明確に捉えられるよう、南北におおむね等距離になるよう計 8 ヶ所の定点を決め、年に 2 回、沿岸から採水し測定する調査を実施しました。トリチウムや放射性セシウム、ストロンチウム 90 を測定し、沖合調査だけではなく沿岸の調査を継続しています。

【海水採取地点】



沿岸海水調査：2 回

1 回目：2023 年 5・6 月

2 回目：2023 年 12 月

地点名	市町村	原発からの距離
相馬港	相馬市原釜大津	北約45km
萱浜、村上海岸	南相馬市原町区萱浜、村上	北約16km
請戸港	双葉郡浪江町請戸	北約6.5km
双葉海水浴場 (マリンハウス双葉)	双葉郡双葉町	北約3.5km
熊川河口付近	双葉郡大熊町熊川	南約3km
富岡港	双葉郡富岡町仏浜	南約9.5km
岩沢海水浴場 (広野火力横)	双葉郡楢葉町	南約20km
小名浜港	いわき市小名浜	南約55km

海水 Cs-137 測定結果(Bq/L)

	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	小名浜港
2023年5月・6月	0.005±0.0006	0.005±0.0005	0.010±0.0007	0.004±0.0006	0.020±0.0008	0.010±0.0007	0.008±0.0006	0.001±0.0006
2023年12月	0.007±0.0006	0.005±0.0005	0.009±0.0006	0.012±0.0006	0.013±0.0004	0.010±0.0007	0.006±0.0006	0.002±0.0005

海水 Sr-90 測定結果(Bq/L)

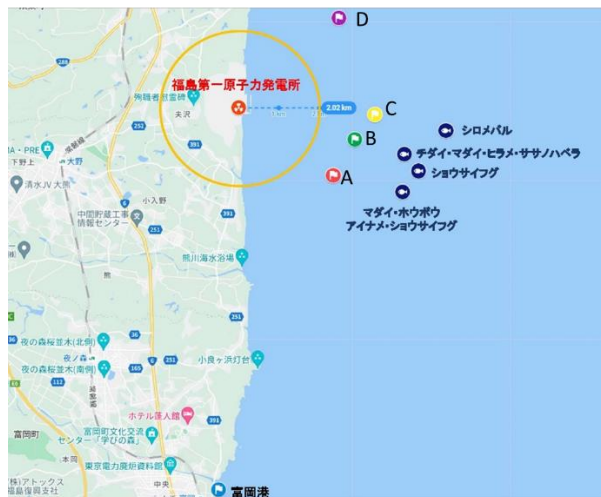
	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	小名浜港
2023年5月・6月	0.0011±0.0003	0.0005±0.0003	0.0012±0.0003	0.0009±0.0003	0.0006±0.0003	0.0006±0.0002	0.001±0.0003	0.001±0.0003
2023年12月	測定中	ND<0.0008	ND<0.0008	0.0011±0.0003	0.0006±0.0003	0.0008±0.0003	ND<0.0003	ND<0.0005

海水 H-3 測定結果(Bq/L)

	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	小名浜港
2022年6月	欠測	ND<0.13	欠測	ND<0.13	欠測	ND<0.11	ND<0.05	ND<0.11
2022年12月	ND<0.04	ND<0.04	ND<0.04	0.07±0.04	ND<0.04	ND<0.04	0.05±0.04	欠測

○海洋調査結果(福島第一原発 沖合)

たらちねによる沖合の海洋調査は、東京電力敷地内の陸から半径 1.5km より外側の海域の A～C の地点でサンプリングを行っていましたが、2021 年から海洋放出のトンネル側である地点 D を新たに増やしました。



2023 年度 沖合調査回数 3 回

第 37 回 2023 年 5 月 31 日
第一原発沖・富岡港

第 39 回 2023 年 8 月 2 日
第一原発沖・富岡港

第 40 回 2023 年 8 月 23 日
第一原発沖

※現在、随時測定中
測定が終わり次第、HP にデータを掲載予定



Cs-137 測定結果(Bq/L)

	A表層	A下層	B表層	B下層	C表層	C下層	D表層	D下層	富岡港 表層
2023/5/31	0.003±0.0005	0.003±0.0005	0.004±0.0005	0.005±0.0005	0.004±0.0006	0.003±0.0005	0.004±0.0005	0.003±0.0006	0.01±0.0007
2023/8/2	0.002±0.0005	0.008±0.001	0.003±0.0005	0.003±0.0006	0.003±0.0005	0.003±0.0005	0.003±0.0005	0.004±0.0006	0.008±0.0006

	シロメバル	ショウサイフグ	シロメバル	ウスメバル	シロメバル	シロメバル	ウスメバル	シロメバル	シロメバル	キツネメバル	シロメバル		
2023/5/31	0.8±0.1	0.7±0.1	1.4±0.1	1.3±0.1	0.7±0.1	0.6±0.1	0.7±0.1	0.8±0.1	1.0±0.1	0.3±0.1	0.7±0.09		
	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ	キツネメバル	ヒラメ	クロソイ	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	サメ	ヒラメ
2023/8/2	0.9±0.1	0.5±0.1	0.2±0.06	0.3±0.08	0.4±0.05	0.3±0.05	0.3±0.1	0.4±0.07	0.4±0.05	0.7±0.05	0.5±0.04	1.7±0.1	0.7±0.1

Sr-90 測定結果(Bq/L)

	A 表層	A 下層	B 表層	B 下層	C 表層	C 下層	D 表層	D 下層	富岡港 表層
2023/5/31	0.0005 ± 0.0003	0.0006 ± 0.0003	0.0009 ± 0.0003	0.0006 ± 0.0003	0.0008 ± 0.0003	0.0009 ± 0.0003	0.0009 ± 0.0004	ND < 0.0005	0.0005 ± 0.0002
2023/8/2	0.0005 ± 0.0003	ND < 0.0004	ND < 0.0004	0.0007 ± 0.0003	ND < 0.0004	ND < 0.0004	ND < 0.0004	ND < 0.0004	0.0005 ± 0.0003

	シロメバル	ショウサイフグ	シロメバル	キツネメバル	シロメバル
2023/5/31	ND<0.13	ND<0.60	0.46±0.13	ND<0.12	0.19±0.11
	ヒラメ				
2023/8/2	ND<0.14				

H-3 測定結果(Bq/L)

組織自由水型	シロメバル	キツネメバル	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ
採取日	2022/5/10		2022/8/24		2023/8/2
測定結果	ND<0.36	ND<0.36	ND<0.35	ND<0.44	ND<0.35
有機結合型	シロメバル	キツネメバル	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ
採取日	2022/5/10		2022/8/24		2023/8/2
測定結果	ND<0.09	ND<0.09	ND<0.09	ND<0.09	ND<0.09

※N D(不検出)は、放射性物質が全く存在しないことを意味するのではなく、測定値が検出下限値未満であることを示します。

○海洋調査結果(宮城県仙台湾)

2023 年度は、宮城県仙台市の市民の皆さんの協力のもと、仙台湾の沖合と沿岸部の海洋調査を始めました。沿岸調査は7月の1回、沖合海洋調査は2023年4月と10月の2回、合計3回の調査を実施することができました。



○採取検体
・海水
・魚類

○測定核種
・放射性セシウム
・ストロンチウム90
・トリチウム



沿岸調査 海水 測定結果

2023/7/25 採取	仙台市/仙台新港	東松島市/浜市海岸	亶理市/荒浜海岸
セシウム137 (Bq/L)	0.003±0.0005	0.002±0.0004	0.003±0.0006
ストロンチウム90 (Bq/L)	0.0008±0.0003	0.0007±0.0002	0.0005±0.0002

沖合調査 海水 測定結果

2023/4/18 採取	仙台新港沖		阿武隈川河口沖		関上沖	
	表層	下層	表層	下層	表層	下層
セシウム137 (Bq/L)	0.003±0.0005	0.005±0.0005	0.002±0.0005	0.004±0.0006	0.001±0.0005	0.004±0.0006
ストロンチウム90 (Bq/L)	ND<0.0005	ND<0.0004	0.0007±0.0004	0.0005±0.0002	0.0006±0.0003	ND<0.0005

2023/10/5 採取	仙台新港沖		阿武隈川河口沖		東松島市/浜市沖	
セシウム137 (Bq/L)	0.004±0.0005	0.009±0.0007	0.001±0.0006	0.008±0.0006	0.002±0.0004	0.002±0.0006
ストロンチウム90 (Bq/L)	ND<0.0004	ND<0.0003	ND<0.0005	ND<0.0005	測定中	ND<0.0004

沖合調査 魚 測定結果

2023/4/18 採取	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	シロメバル	マサバ
セシウム137 (Bq/kg生)	ND<0.3	ND<0.5	0.4±0.1	0.2±0.09	0.4±0.1	0.4±0.2	0.2±0.1	ND<0.3	ND<0.6	ND<0.4	ND<0.6	0.3±0.1
ストロンチウム90 (Bq/kg乾)	—	—	ND	—	ND<0.27	—	—	—	—	—	ND<0.16	ND<0.13

2023/10/5 採取	ショウサイフグ	ショウサイフグ	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ	ヒラメ
セシウム137 (Bq/kg生)	0.2±0.08	0.2±0.1	0.3±0.1	ND<0.3	0.2±0.1	ND<0.2

※海水の自由水型トリチウムの測定結果は、測定が終わり次第たらちね HP に掲載予定です。

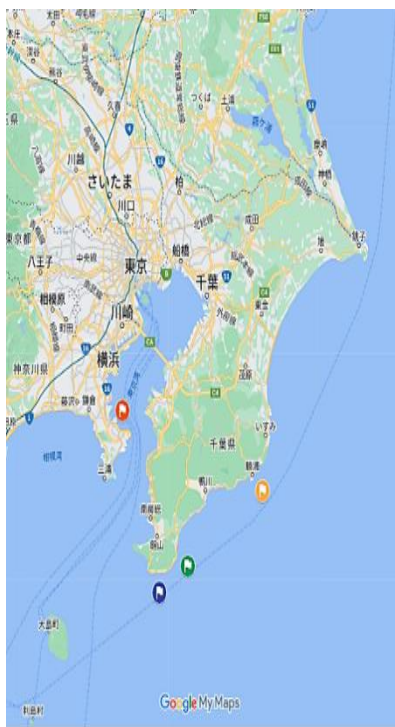
※2023/10/5 採取 魚のストロンチウム 90 の測定結果は、測定が終わり次第たらちねの HP に掲載予定です。

※ND(不検出)は、放射性物質が全く存在しないことを意味するのではなく、測定値が検出下限値未満であることを示します。

○海洋調査結果(神奈川県東京湾・千葉県沿岸)

宮城県と同じように、神奈川県と千葉県の市民の皆さんの協力のもと、東京湾の調査と千葉県沖の調査も初めて行いました。東京湾では、海水の採取と同時に不撓乱柱状採泥器を使って海底の採泥も行いました。

千葉県沖はヨットで沖を移動しながら、南房総沖・千倉沖・勝浦沖の3地点で海水を採取し測定しました。



- 採取検体
 - ・海水
 - ・海底土
- 測定核種
 - ・放射性セシウム
 - ・ストロンチウム90
 - ・トリチウム



■東京湾 調査 2023/11/10採取■

海水 測定結果

		海水A	海水B 表層	海水B 下層
セシウム137 (Bq/L)		0.001±0.0005	0.002±0.0005	0.002±0.0004
ストロンチウム90 (Bq/L)		ND<0.0004	0.001±0.0003	0.0009±0.0003

海底土 測定結果

	湖底土A 表層	湖底土A 5cm	湖底土A 10cm	湖底土A 15cm	湖底土A 20cm	湖底土A 25cm
セシウム137 (Bq/kg乾)	4.8±0.3	4.8±0.3	4.7±0.4	4.2±0.2	1.9±0.3	1.6±0.2

	湖底土B 表層	湖底土B 5cm	湖底土B 10cm
セシウム137 (Bq/kg乾)	4.7±0.4	6.8±0.3	7.8±0.8



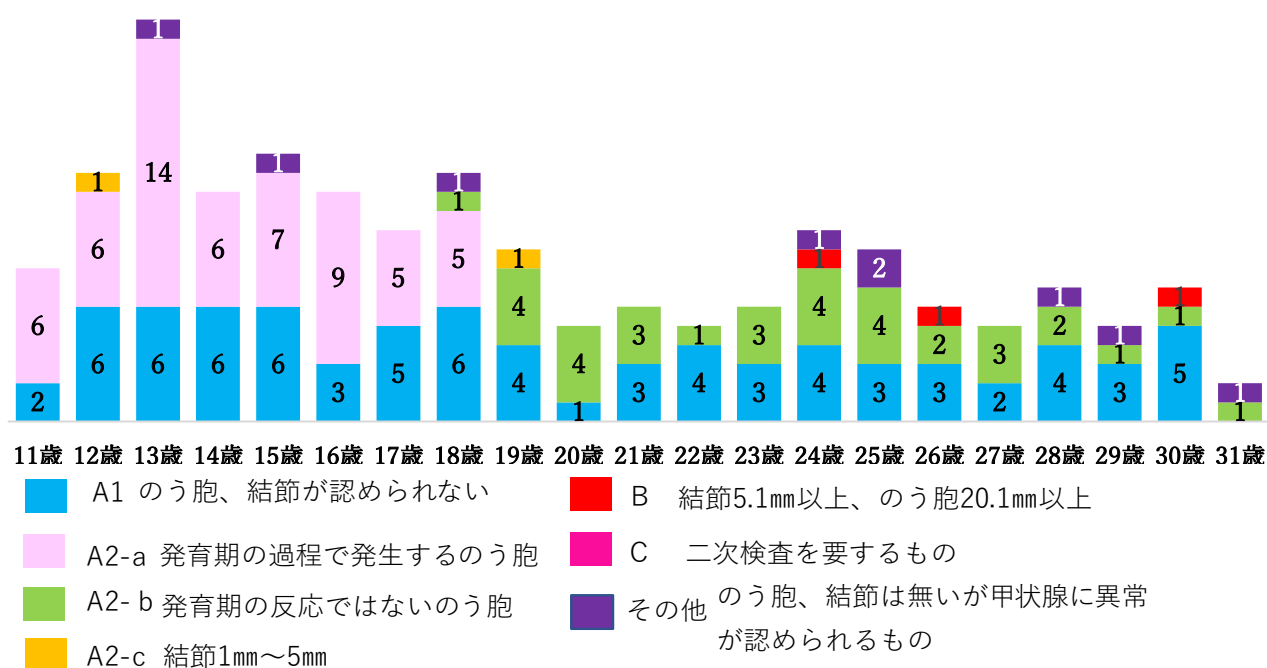
■千葉県沖 調査 2023/10/30採取■

	勝浦沖	南房総沖	千倉沖
セシウム137 (Bq/L)	0.002±0.0004	0.002±0.0005	0.001±0.0005
ストロンチウム90 (Bq/L)	ND<0.0005	ND<0.0005	ND<0.0004

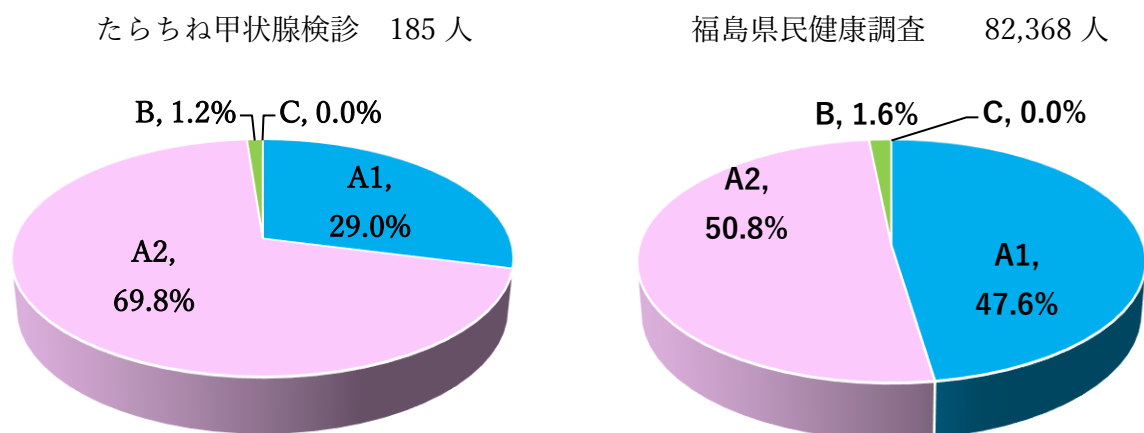
【甲状腺検診事業】

2023年4月～2024年3月のたらちね出張甲状腺検診は、会津（1回）26人、福島県浜通り（4回）63人、福島県中通り（9回）173人、福島県外で宮城県南部（3回）115人、山形県米沢市（1回）21人、茨城県（1回）26人、東京都（2回）54人で、全20回、合計478の方が利用されました。受検者数は減少傾向になりつつあります。しかし、2023年度は「初めて たらちねの甲状腺検診を受けた」という人が223人もいました。検診会場での対話から、不安を抱えている方もまだまだいることがわかります。たらちねの出張検診は、これからも続けて行くので、多くの方に利用していただけるよう広報にも工夫をしていきたいと思ひます。

○年齢別検診結果（受診者対象 1992年4月2日～2012年4月1日生まれ 合計185人）



○福島県健康調査との比較図



出典 福島県民健康調査「甲状腺通信 20号」

【クリニック事業】

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行があり、様々な感染対策を行いながらの診療でした。

開院当初より行っている、原発事故当時 18 歳以下の方を対象にした「たらちねこどもドック」は、これまで通り継続し、甲状腺検診・ホールボディーカウンター・尿中セシウム測定・血液尿検査・心電図などの結果をこどもドック手帳に記入し、手渡しました。尿中セシウム測定は、示された結果だけでは理解しにくいとため、解説報告書を作成、丁寧に説明し理解を深めてもらえるよう心掛けました。

また、2020 年度から始めた、双葉郡と近隣に居住している方・就労している方を対象とした、無料の健康診断(大人ドック)もこれまで同様実施しました。

双葉郡では、年間受託線量が 20mSv/年という通常の 20 倍の地域への帰還政策が推し進められています。人が居住すれば経済活動も始まり、多くの人の出入りがあります。そして、親と一緒にその地域に住む子どもたちもいます。

被災地には、さまざまな事情を抱えた人々が混在し生活しています。それら地域の人々、そして子どもたちの健康を見守る活動を今後も継続していきたいと思ひます。

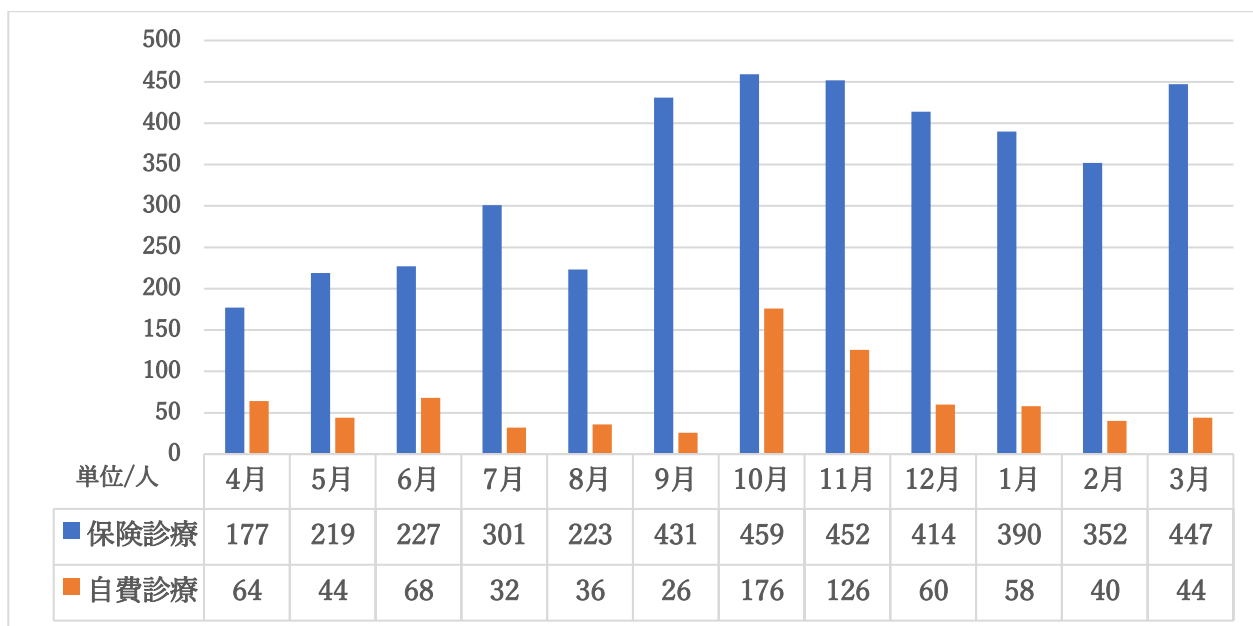
○ホールボディーカウンター

・2011 年度～23 年度 総受検者数 5235 人

	▼4月	▼5月	▼6月	▼7月	▼8月	▼9月	▼10月	▼11月	▼12月	▼1月	▼2月	▼3月	▼合計	▼
2011年度									76	405	515	547	283	1826
2012年度	118	58	57	152	80	94	59	34	40	19	46	20	777	
2013年度	14	13	7	4	24	10	4	9	13	3	27	14	142	
2014年度	12	19	11	14	17	7	12	9	17	9	22	17	166	
2015年度	6	25	17	12	27	10	27	21	106	29	51	52	383	
2016年度	20	24	15	29	19	69	98	58	22	54	19	85	512	
2017年度	30	34	30	15	32	39	50	30	38	50	22	46	416	
2018年度	30	31	18	39	21	22	37	29	20	17	27	25	316	
2019年度	21	24	24	23	18	15	26	15	25	24	12	17	244	
2020年度	12	0	2	12	13	16	13	13	16	20	27	44	188	
2021年度	38	4	9	18	10	6	9	2	6	4	4	7	117	
2022年度	14	4	3	9	6	5	5	3	3	4	5	11	72	
2023年度	16	13	8	2	2	4	8	2	3	9	4	5	76	

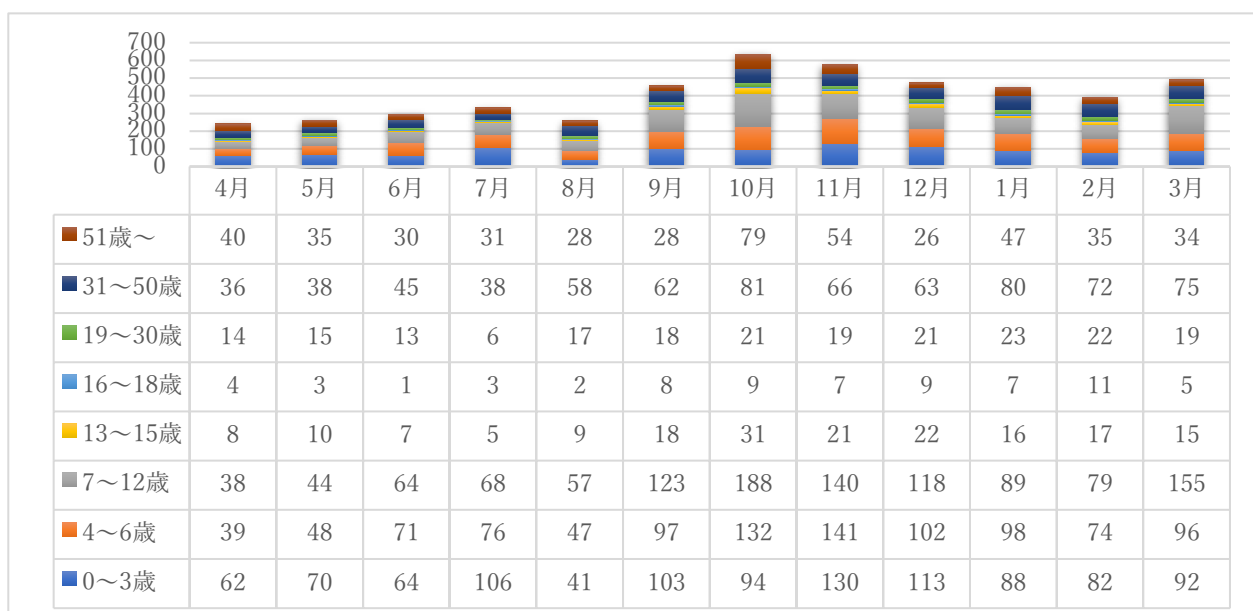
○患者利用者数

2023年度は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザウイルスの同時流行がみられました。



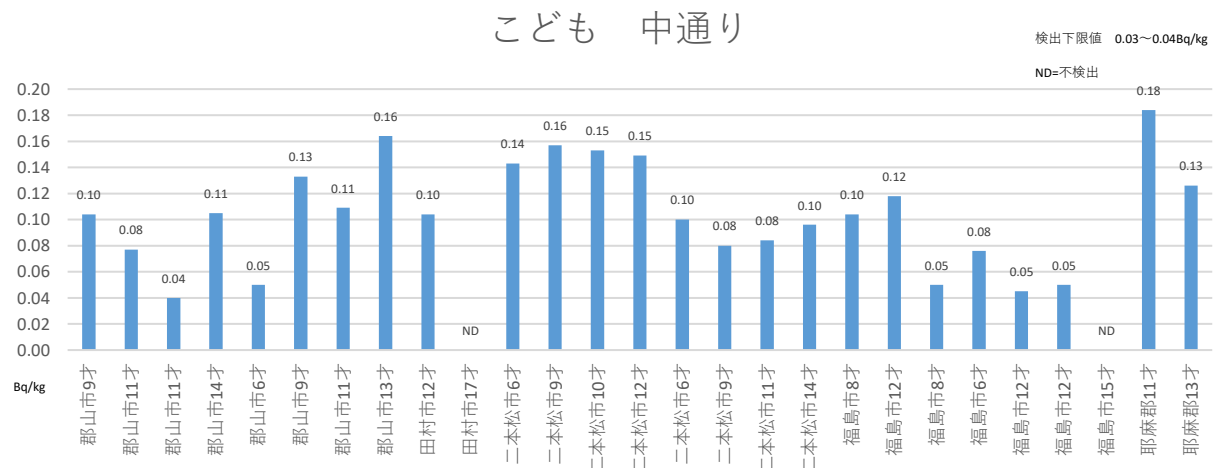
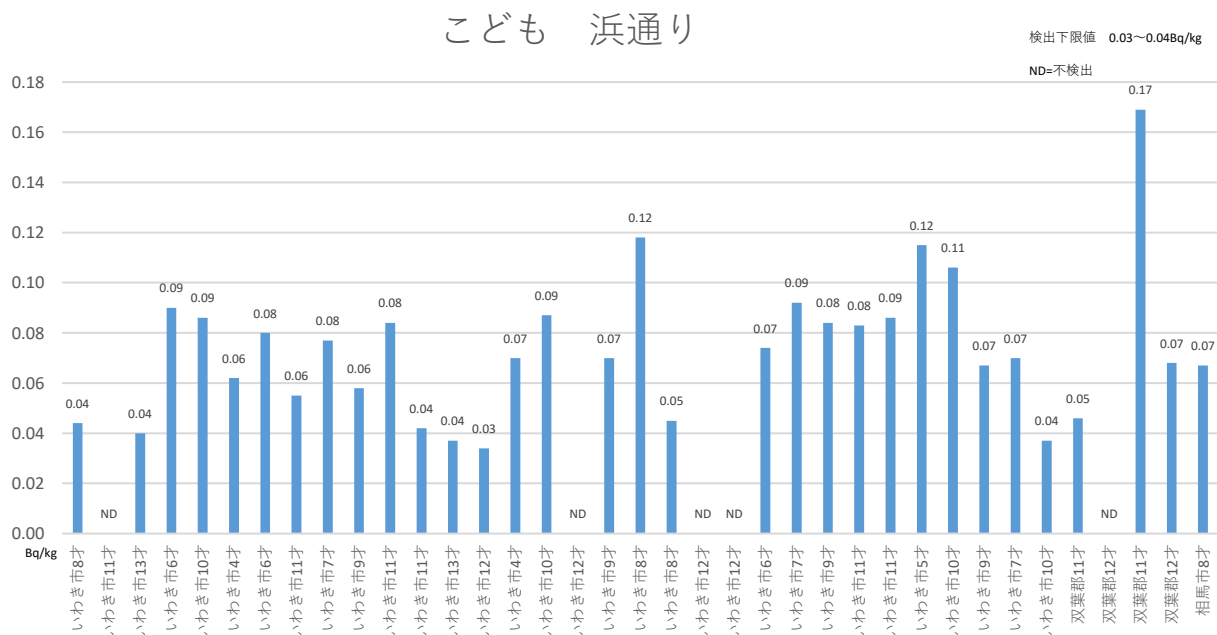
○年齢別・月別患者数

乳幼児から小学生の患者さんが半数を占め、30代以上の多くの患者さんが、お子さんと一緒に受診した保護者の方です。

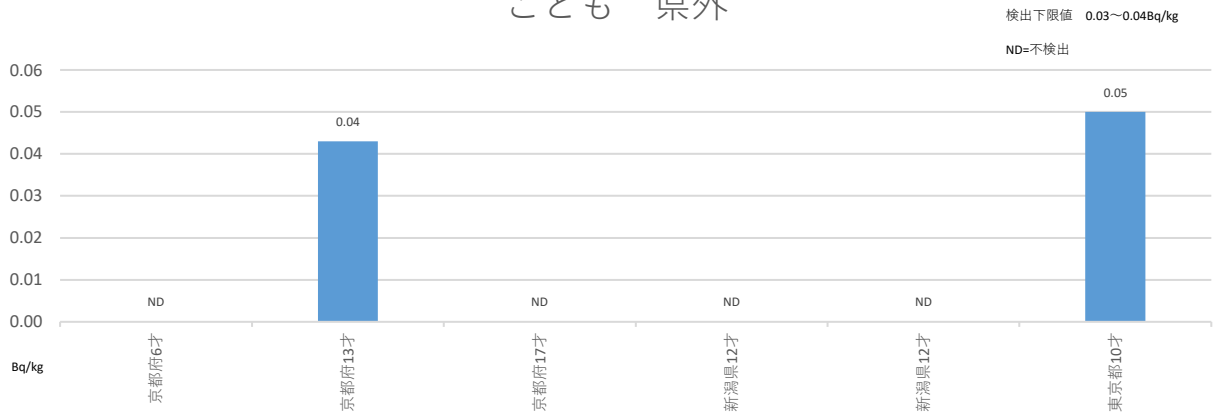


○尿中セシウム測定

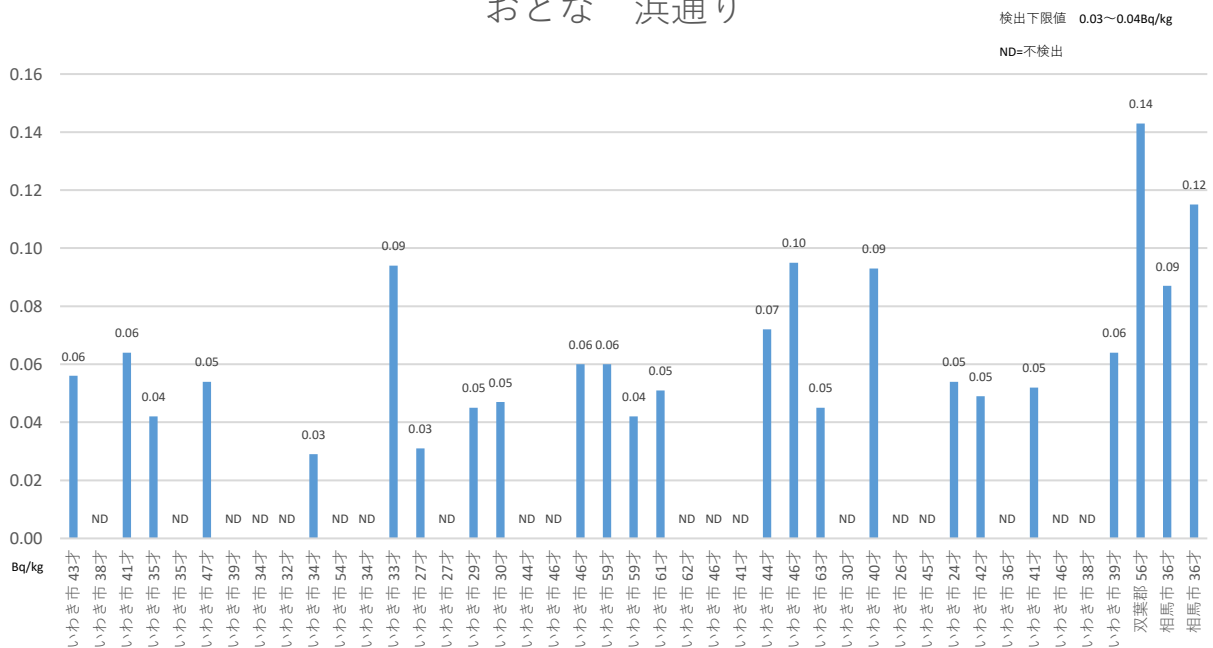
東京電力福島第一原発事故の後、国は被災者の内部被ばくを知る方法として尿中セシウムの測定を提案しました。しかし、福島県は、内部被ばくの推移が詳細にわかる尿中セシウムの測定を拒否し、ホールボディカウンターによる測定のみを福島県が認める有効な測定法としました。たらいねでは、2015 年から NPO 法人新宿代々木市民測定所と連携し尿中セシウムの測定を実施しています。これまで測定を受けた人は 1000 人以上になりました。この結果を知ることにより、食べ物や生活環境を見直したりして被ばくの軽減に至った人がたくさんいます。今後も、被ばく軽減のため、その目安になる尿中セシウム測定を継続していきたいと思います。



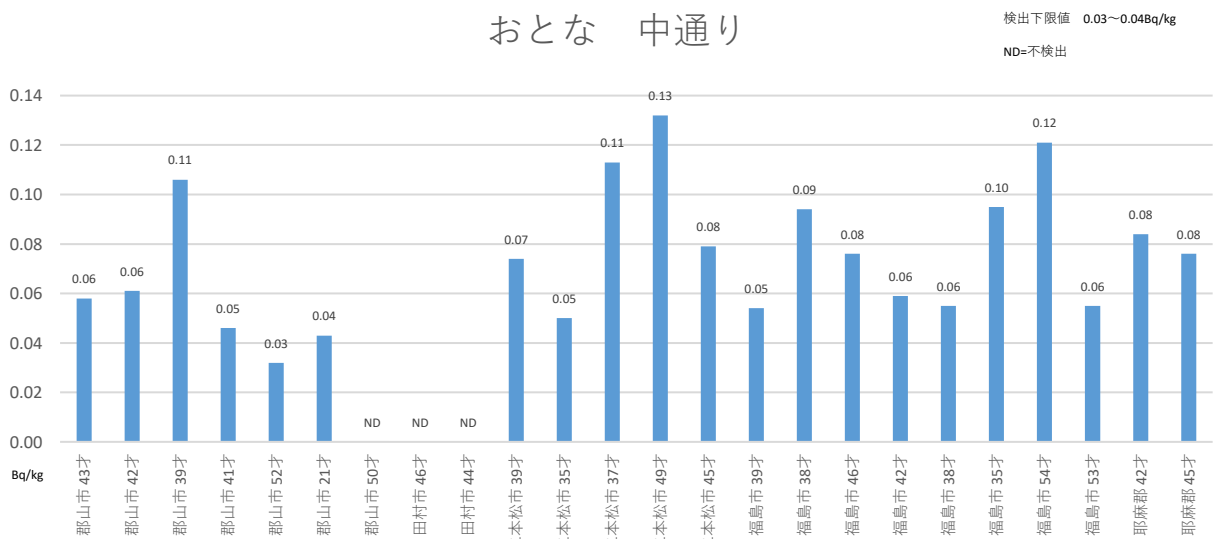
こども 県外



おとな 浜通り



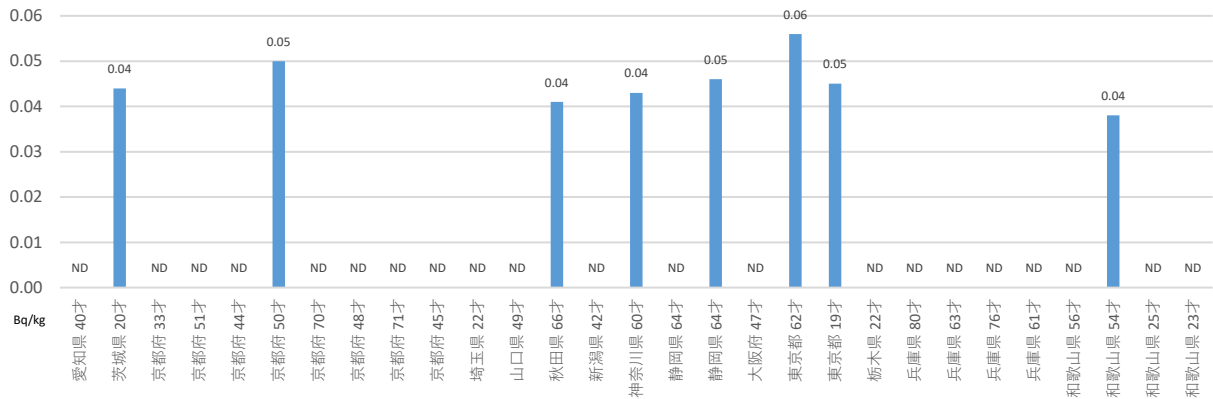
おとな 中通り



おとな 県外

検出下限値 0.03~0.04Bq/kg

ND=不検出



○無料健康診断のご案内

無料健康診断は一般財団法人ふくしま百年基金「被災者の心の健康を守る福島支援事業」により実施されました。

たらちねクリニック
無料健康診断のご案内

こちらの検診は 一般財団法人ふくしま百年基金の 「被災者の心の健康を守る福島支援事業」 による支援でまかなわれております

詳細は裏面をご覧ください

下記の項目を **無料** で受けることができます！
 希望の項目のみも検査可能です

対象者： 双葉郡やその近隣でお仕事をされている方
 双葉郡に現在居住している方、及び居住していた方

ご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください

検査項目		参考料金
診察	内科診察	
甲状腺超音波(エコー)検査	のう胞や結節などの有無を調べます	3,500円
ホールボディカウンター(WBC)	全身の放射能測定(5-15分間)	4,000円
尿中セシウム測定	自宅で2ℓの蓄尿が必要ですが クリニックで専用のキットをお渡しします	4,000円
身体計測・生理学的検査	身長、体重、視力、聴力、血圧	
血液検査	一般的な血液検査項目 (肝臓、腎臓、貧血、炎症反応) などに加えて 甲状腺ホルモンも調べます	5,260円
尿一般検査	比重、PH、蛋白、糖 ウロビリノーゲン、潜血	
胸部レントゲン		2,400円
心電図		1,300円

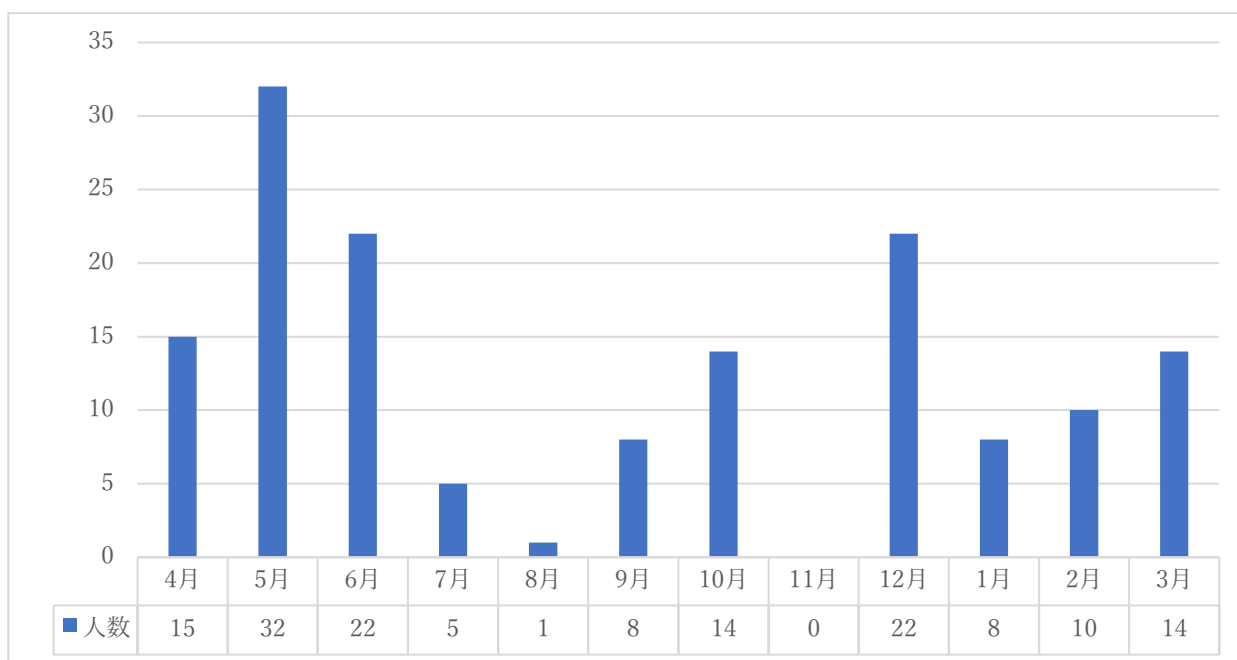
たらちねクリニック
 Mothers' Radiation Lab & Clinic Fukushima

〒971-8162 いわき市小名浜花畑町1-3 カネマンビル2階
 認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね 併設
 TEL 0246 -38 -8031 FAX 0246 -38 -8322
 メール toiawase@tarachineiwaki.org

この機会に
ぜひ
受けてみませんか？



○こどもドック利用者数



○こどもドック手帳

たらちねでは「事故当時小さかった子どもたちが成長し、大人になっても自分自身の健康を守っていけるように」と願いを込めて、2021年4月に『たらちねこどもドック手帳』を作成しました。

たらちねこどもドックを受けた皆さんに配布しております。



○クリニック利用者の声

- ・スタッフの皆さん明るく挨拶をしてくれて、とても雰囲気が良いですね。(80代男性)
- ・診察室にお子さんが描いたかわいらしい絵を飾られていて心が和みますね。(60代女性)
- ・先生はいつも優しく診察してくださるので、病院が苦手な子も「ここだったら大丈夫!」と言っています。(30代女性)
- ・「先生のところに遊びきたよ!」(4才男児) 診察ではなく遊びに来るお子さんもいらっしゃいます。
- ・「ちょっとした傷もさっと縫ってしまうので驚きました。本当に頼りになる良い先生です。」(40代女性)
- ・スタッフも先生もきちんと話を聞いてくれるので安心します。(40代女性)
- ・除染の仕事をしているが内部被ばくの検査をしてくれるので助かっている。(50代男性)
- ・いつも孫がお世話になっていて優しい先生だなと思っていたので自分もかかってみたくて受診しました。(70代女性)

【保養事業】

2023 年度は、新型コロナウイルスやさまざまな感染症の感染予防のため、2022 年度に引き続き、少人数での保養となりました。2011 年の福島第一原発事故後に被ばくの心配がない安全な地域で一定期間過ごし、身体の健康をとり戻す事を目的に始まった保養事業ですが、原発事故から 10 年以上が過ぎて、保養に求められるニーズが変化してきていると感じます。

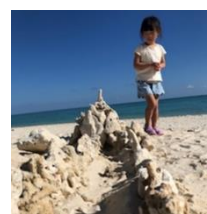
原発事故前後に生まれた子どもたちが思春期になり、心の問題が表に現れる時期であることや、震災の影を背負った家族が重苦しく閉塞的な社会で声を出さずにひっそりと暮らし続けるストレスなど、さまざまな問題が起きています。

保養には、それらを緩和させる力があり、日常から離れのんびり過ごすことで、身体的な放射能デトックスの役割だけでなく、心にも安定と休養をもたらす効果があります。

○沖縄・球美の里（沖縄県久米島）

2023 年 4 月から、たらちねの事業として新たにスタートしました。少人数でのファミリー保養を中心に、1 月～12 月まで毎月保養を実施しました。

合計 18 回、大人 73 名 こども 55 名の方が保養に参加しました。



○くまべこ子どもを守るママの会（南会津只見）

2023 年は、夏と冬の年 2 回実施し大人 21 名・子ども 17 名の合計 38 名の方が保養に参加しました



○オルト・デイ・ソーニ（イタリア）

2019 年からの世界的なコロナウイルス感染症拡大に伴い、実施を見合わせておりましたが、2023 年度は、11 歳・12 歳の男の子 4 名の参加者を迎え、全行程 1 ヶ月の保養を行いました。

過去にイタリア転地保養に参加し、現在は大学生となった「オルトキッズ」がボランティアとして参加しました。



【あとリエ・たらちね こころのケア事業】

たらちねでは、こころのケア事業として、あとリエ・たらちねを開設し、今年で6年目となりました。お子さんやお母さんの元気をサポートするために、それぞれの語り（ナラティブ）が自由にできる守られた空間と、遊び、こころの疲れをほぐすボディーワークなどを中心に様々なメニューを揃え、事業を展開しています。

2023年度の利用人数合計は、延べ207名。保護者と子どもの利用人数の内訳は、保護者が延べ129名、子どもが延べ78名。子どものケアを考える時、親のケアも同じ様に大事になってきます。お母さん一人ひとりの語り（ナラティブ）を大切に、ママカフェを通して相談の場を広げていったことが、保護者利用の人数に反映されたようです。

○「こころの井戸」の深さ

3.11の当時の記憶は、同じ出来事でも一人ひとり物語があり、背負ってしまったお母さんのトラウマは消えることなく、今も当時の自分を責め苦しんでいます。一人ひとりの語りから言えるのは、精一杯、母として「自分の子どもを救いたい」という思いです。その中で、子どもたちも必死に生き抜き、乳幼児でありながら親を助け共に戦った姿があります。子どもたちは、平穏でゆっくりとした発達を遂げるのではなく、生きるために早熟にならざるを得ず、その急速な成長と頑張りの疲労が思春期になり始めている子もいます。それは親への反抗的な言葉であり、乱暴な態度であり、登校拒否であり、様々です。私たちにできることは母と子の話を聞き、寄り添うことです。時間をかけ積み重ねる時を大切に過ごしました。

○ママカフェ・イベント

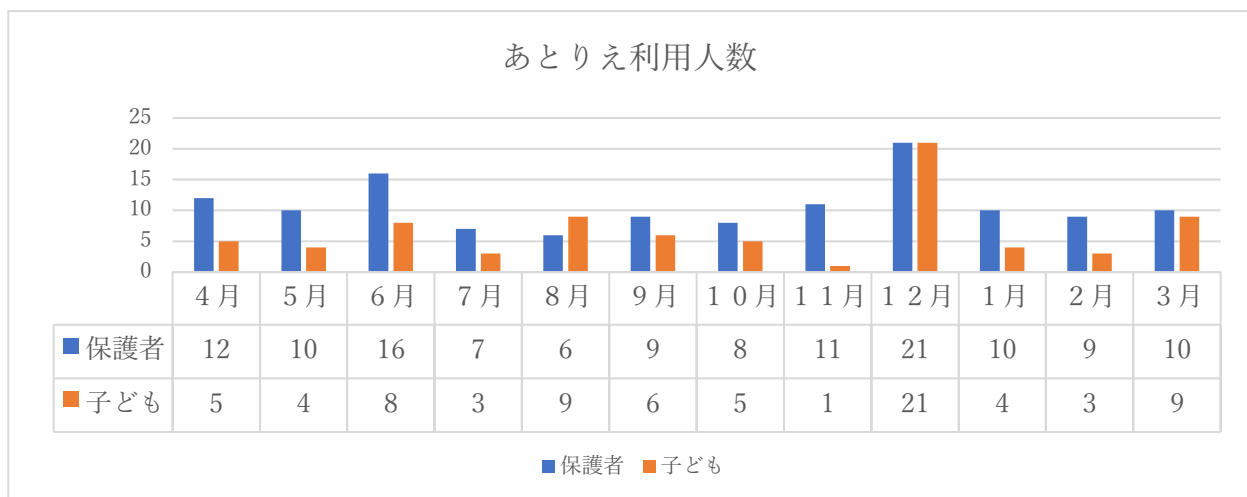
月に1回のペースで開催しました。ワークショップでの作品作りや、世代間伝達についての本の読み合わせや、自身の子育ての悩みをおしゃべり、夏休み・冬休み期間はお子さんと一緒に楽しめるママカフェとしました。コロナ期間中の育児は閉鎖的で気軽に出掛けることもできず、苦しい思いの中、子育てされてきたお母さんたちは多く、東日本大震災を思い出すようでした。心身共にリフレッシュしてもらい、一人じゃない、まわりにも同じ人たちがたくさんいること、来て良かったと思える空間を大切にしました。

○日本乳幼児精神保健学会 第3回横浜学術集会 参加

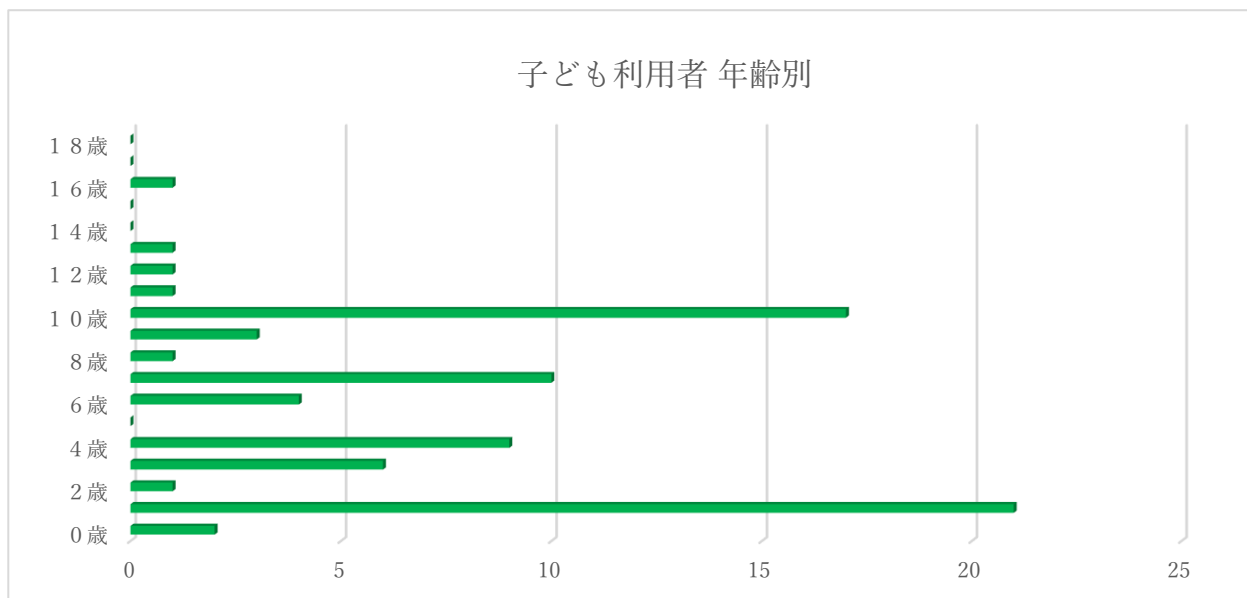
前例のない未曾有の震災から現在までの子どもたちの心の様子や母親の語りを中心に発信しました。また事例検討を通じ、乳幼児精神科医など専門家からのスーパーバイズをいただきました。スタッフのスキルアップと学びに大きく役立ちました。



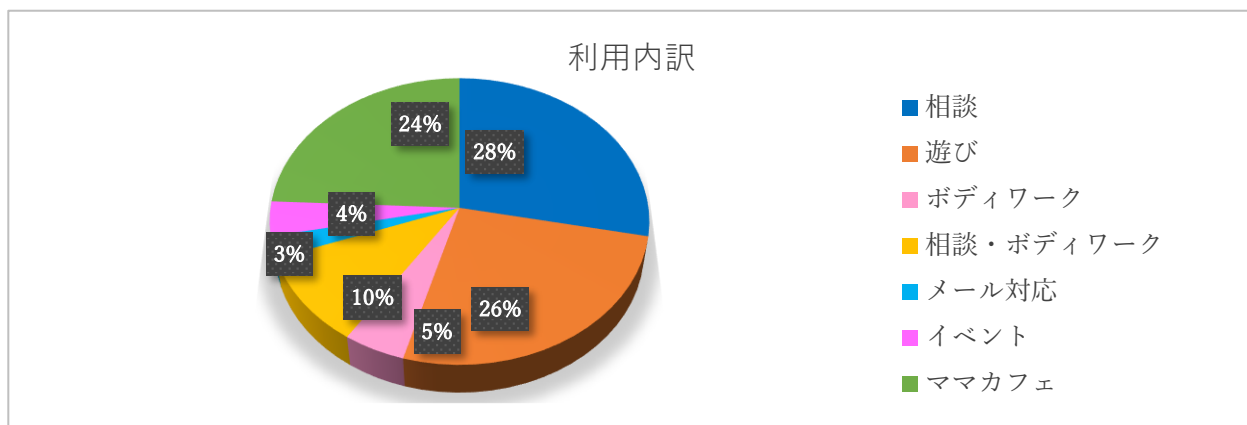
○子どもと保護者の利用人数



○子ども利用者 年齢別



○利用内訳



【歴史探訪プロジェクト事業】

「たらちね歴史探訪プロジェクト」は、「なぜ、原発事故が起きたのか？なぜ、私たちは被災しなかったのか？」を被災地の住民目線で考え、次世代の子どもたちに伝えるために始めた事業です。それぞれの土地の歴史を紐解き、そこに生きる人々の心の変化や過去の経験を知るために、たくさんの人々から話を聴かせていただきました。また、地域の博物館や資料館へ出向いて文献調査や情報収集を行いながら進めました。

聞き取りを行った方々は18名(実人数)、施設見学は10ヶ所(延べ数13)を超えました。双葉郡の原発立地付近で生活をされていた方々から聞く生の声からは、「今」というのは、過去があって未来へ繋がるものであると改めて考える機会をいただきました。

○原発事故が起きた被災地の過去から現在までの歴史の資料一部

時代	福島第1原子力発電所に関わる歴史	主な歴史	インタビュー資料
昭和	1960 福島県が原発誘致を表明		佐言語：原発の歴史
	1961 大熊町双葉町が原発誘致を決議		
	1962 東京電力が長春原地内の水質調査を福島県開発公社に委託		
	1963 東京電力は大熊町双葉町を建設予定地に内定し福島県に用地買収権を正式依頼する		
	1964 県開発公社は大熊町双葉町の開発特別委員会に用地買収の基本方針を説明する		
	1964 東京電力と「用地取得等の委託に関する契約」を締結する		Mさん：用地買収 ※8
	1965 東京電力が福島県に原子力発電所の立地決定通知をする		Nさん：用地を手放した当時の記憶 ※9
	1965 県開発公社は買収した用地95万㎡を東京電力に引渡しを完了した		Oさん：当時の生活 ※10
	1967 東京電力は双葉町地内に追加用地119万㎡を取得した	1966 茨城県東海村に日本初の原子力発電所ができる	Pさん：原発前の生活 建物(箱物) ※11
	1971 福島第一原子力発電所完成 ※電源三法は1974年に成立		Qさん：建物(箱物)の悲劇
平成		1979 スリーマイル島原子力発電所事故	Rさん：常磐炭鉱閉山と南国のハワイ ※12
	1982 福島第二原子力発電所完成		
		1985 男女雇用機会均等法 制定	
		1986 チェルノブイリ原子力発電所事故	
		バブル崩壊 (1991-1993)	
		1999 東海村JCO臨界事故	
	2011.3.11 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故発生		
	2011.11.13 いわき放射能市民測定室たらちね 開所		Sさん：震災後の避難生活 現在の気持ち ※13
		2012 原発事故子ども・被災者支援法 制定	
		2015 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 設立	神社宮司Tさん：歴史を紡いでいく思い(心) ※14
令和		2015 SDGs (持続可能な開発目標) が採択	
		2016 部落差別解消推進法 施行	双葉町Uさん：避難生活と故郷への思い ※15
	2019 大熊町 避難指示解除準備区域及び居住制限区域を解除		
	2020 双葉町 避難指示解除準備区域及び特定復興再生拠点区域の一部を解除 大熊町 特定復興再生拠点区域の一部を解除		双葉町Vさん：原発事故後の思い
	2022 大熊町 特定復興再生拠点区域を解除／双葉町 特定復興再生拠点区域を解除	2022 大熊町学び舎ゆめの森 開校	大熊町のお母さんW：学び舎ゆめの森開校 ※16
	2023 ALPS処理水海洋放出開始		



○歴史探訪を進めていく中で

衣・食・住を自分たちの手で汗水流してつくり上げてきた時代があったことを改めて感じました。「お蚕様を大切に育てそこから糸を紡ぎ、育てた野菜から次の時期にまく種を取り、自然の恵みをいただき自らの力で家を建てる」まさに循環型の社会がそこにはありました。経済的な豊かさだけを求めるとき、それは崩れ、先祖が大切に繋いできたものを私たちは手放してしまいました。一度原発を受け入れてしまうと、世代を超えてその問題から逃れることができないからくりがみえてくる、と聞き取りで話されている方もいました。便利さ、快適さの追求は、本来わたしたちが生まれながらに持っていたものを退化させてきたように感じます。

この歴史探訪は、これからも続いていきます。子どもたちが幸せを感じられる未来へ向けて、この学びを糧に、過去を生きるのではなく、未来をどう作っていくかを皆さんと共に考えていきたいと思っています。

【防災・原発事故の心得プロジェクト】

○たらちね防災プロジェクト

2022年8月から、防災プロジェクトをスタートしました。これまで、原発事故に特化した市民目線の防災プロジェクトはありませんでした。本プロジェクトは、市民と女性の目線から考える「原発事故防災」です。

2023年1月からzoomによる学習会を重ね、2023年度も4月から平日の夜や休日の昼間など、参加者の皆さんのニーズに合わせた形で開催しました。

「原発事故は本当に他人事ではなく、各地にある原発がいつ事故を起こすかわからない。」「一人一人が当事者だと自覚できた。」など、たくさんの反響がありました。

《プログラム1》

- ・6/18 講師 たらちね理事長 鈴木 薫

『原発事故が起きたらどうなるの？発災直後に市民ができる被曝防護について被災者に聞く』

- ・7/15 講師 元原子力研究所研究員 工学博士 天野 光

『放射能の汚染ってどういうこと？放射線と放射性物質について学ぶ』

- ・7/23 講師 いわきの初期被曝を追及するママの会 代表 千葉 由美

『被曝後の世界で子どもたちはどう暮らすの？子どもたちの被曝防護について聞く』

- ・8/11 講師 渡邊醫院 LIFE DEVELOPMENT CENTER 乳幼児精神科医 渡辺 久子

『原発事故と心の分断 大人の心の井戸と子どもの心の井戸 そして語りがもたらす力』

- ・4/7・8/27 講師 国際環境NGO FoE Japan 理事 事務局長 満田 夏花

『デブリに触れた汚染水って何？なぜ海に流すの？何が入っているの？』

- ・4/21・9/10 講師 共生システム理工学類教授 柴崎 直明

『汚染水は止められないの？地質からみる止水について』

- ・5/11・9/24 講師 たらちね理事長 鈴木 薫

『市民の目で見えるプロパガンダ リスクコミュニケーションと福島イノベーションコースト構想』

- ・5/25・10/14 講師 たらちねスタッフ 大森 透恵

『原発立地町の歴史を知る』

- ・6/8・10/29 講師 北海道がんセンター名誉院長 西尾 正道

『健康被害ってあるの？放射性微粒子の取り込みと被ばくについて』

○福島現地見学会

11/19（日）20（月）

1日目は原子力災害伝承館の見学、双葉郡双葉駅周辺や復興住宅、路地1本隔てた先は2011年3月11日から手付かずの場所があることや、大熊町周辺では、たらちねが測定した資料を見てもらいながら、数台の線量計を持ち、高線量地域であること、場所によって数値が変化することを、車窓視察しました。

2日目は、座談会やグループワーク、たらちねの見学。

各地の防災意識が高く、それぞれで活動されている方々と一緒に見学できたことが大変良い刺激となり、今後自分がどういう活動をすべきかの指標ができた。などの声がありました。

《プログラム2》

実習編は2024年1月からスタート。発災後の暮らしに必要な放射能測定実習が、スムーズに行えるよう1月から3月までは、zoomで学習会や座談会を行いました。

もし、ふたたび原発事故が起きてしまったとき、すぐに行動できる力や地域コミュニティを今から構築できる体制を整えています。

・1/18・2/8・3/28 講師 たらちねラボスタッフ 水藤 周三

『測定器の種類について知る① ②』 『身近な放射性物質について知る』

・2/22 講師 元原子力研究所研究員 工学博士 天野 光

『放射性物質の改変と減衰の仕組み』

○ぼうさいこくたい 2023 横浜参加

9/18 「防災×女性リーダー」で地域の防災力をアップデートする

平時からの「ジェンダー平等の視点」の地域への反映、多様性に配慮されたしなやかな地域づくりを目的に、女性リーダー育成事業に取り組む全国の団体の事例を紹介し、全国7団体がディスカッションしました。

ファシリテーター 東北大学 石井山 竜平

○大阪研修会

原発は稼働していなくても、自然災害により深刻なダメージをうける可能性を秘めています。初期被ばく、健康被害、心の分断など、事故直後では正しい判断はできず、平時の時だからこそ、どのような行動を取り、対処、対応ができるのか考え、議論しておくことが大切です。大阪の研修会では、いつ、どこで、誰に、何を、なぜ、どのように行動するかアクションプラン『平時の時だからできる対応の必要性をあなたはどのように伝えますか？』を作成しグループワーク後、発表しました。

ファシリテーター office musubime 河合 将生



【講演会・勉強会・イベント開催一覧】

① 2023年5月19日 科学的と装った嘘を暴く～闘いのこれまでとこれから～

講師：東京大学名誉教授 農学博士 鈴木譲先生

参加人数 11 名

② 2023年5月30日 第一回子育てとナラティブ with おがわわわ「お抹茶の会」

参加人数 2 名

③ 2023年6月6日 市民講座「泉地区の廃仏毀釈について」

講師：公益財団法人いわき市教育文化財団 中山雅弘氏

参加人数 3 名

④ 2023年6月27日 第二回子育てとナラティブ with おがわわわ「土偶作り」

参加人数 1 名

⑤ 2023年7月4日 お話し会

「これまでのコロナこれからのコロナ」

講師：総合小児科医 黒部信一先生

参加者 5 名



⑥ 2023年7月25日 第3回子育てとナラティブ with おがわわわ「ブレスレット作り」

参加者 4 名

⑦ 2023年8月18日

科学寺子屋た・ら・ち・ね第五弾

「おしえて！ゆずる先生 海辺にはどんな生きものがいるの？」

講師：東京大学名誉教授 農学博士 鈴木譲先生

参加人数 13 名

⑧ 2023年8月31日 第4回子育てとナラティブ

with おがわわ「ストレッチ」

参加者 2 名

⑨ 2023年9月6日 CAP おとなワークショップ

「子どもへの虐待防止プログラム」

講師：福島県 CAP グループ連絡会

参加人数 3 名

⑩ 2023年9月26日 第5回子育てとナラティブ

with おがわわわ「多肉の寄せ植え」

参加人数 4 名

⑪ 2023年10月23日 第6回子育てとナラティブ with 伝達」

⑫ 参加人数 3 名

⑬ 2023年11月28日 第7回子育てとナラティブ

with おがわわわ「ヘッドマッサージ」

参加人数 3 名



⑭ 2023 年 12 月 26 日 第 8 回子育てとナラティブ
with おがわわ「親子ダンスワークショップ」参加人数 22 名

⑮ 2024 年 1 月 29 日 第 9 回子育てとナラティブ
with おがわわ「恵子さんと話して放す」参加人数 3 名

⑯ 2024 年 2 月 27 日 第 10 回子育てとナラティブ
with おがわわ「レジンのアクセサリ」参加人数 3 名

⑰ 2024 年 3 月 11 日 第 11 回子育てとナラティブ
with おがわわ「ママカフェ振り返り会」参加人数 3 名

⑱ 今中哲二講演会「100 年では終わらない原発事故の後始末」
たらちね活動報告会
講師：京都大学複合原子力化学研究所研究員 今中哲二先生
参加人数 Zoom 最大 88 名、会場 66 名



○SNS フォロワー数 (2024 年 3 月末時点)

- ・フェイスブック 14,794 人
- ・インスタグラム 1,105 人
- ・X (旧ツイッター) 799 人

○登壇

- ① 2023 年 5 月 21 日 NPO 法人 U.grandma Japan 主催「福島ツアー」
- ② 2023 年 5 月 23 日 福島原発震災情報連絡センター
- ③ 2023 年 5 月 26 日 NPO 法人 WE21 ジャパン大和
- ④ 2023 年 7 月 31 日 「考え議論する道徳・授業をめざすための学級づくりを考える」
- ⑤ 2023 年 9 月 17 日 ぼうさい国体 2023
- ⑥ 2023 年 10 月 28 日
東日本大震災復興支援チャリティコンサート第 15 回
「子どもたちの歩く道をととのえていく～お話と篠笛コンサート第 2 弾～」
- ⑦ 2023 年 11 月 12 日 いわき交流相談会
- ⑧ 2023 年 11 月 12 日 なくそう原発清瀬の会
- ⑨ 2023 年 11 月 16 日 2023 年度神戸 YWCA 環境・暮らし委員会神福のはしごプロジェクトオンライン全 3 回シリーズ 今の福島を知る第 3 回「原発事故後 12 年歩み～測り続ける理由」
- ⑩ 2023 年 12 月 2 日 放射能から子どもを守る宮城の会
- ⑪ 2024 年 3 月 11 日 「環境放射能」研究会

<https://drive.google.com/file/d/1kZoRY8O4Lcv6IvFQAfk0nlwjrhjwwm5l/view?usp=sharing>

【見学・取材・メディア掲載情報】

見学者人数：136名 取材件数：25件

メディア掲載（一部）

- ① 2023年5月9日 毎日新聞社発行「サンデー毎日」第102巻22号 P90



- ② 2023年7月8日 北海道新聞（夕刊）



- ③ 2023年7月15日 京都新聞（夕刊）



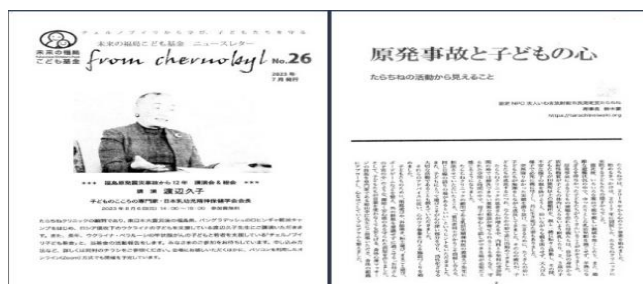
- ④ 2023年6月20日 BBC



- ⑤ 2023年8月1日 岩波書店発行「世界」No.972



- ⑥ 2023年7月7日 未来の福島子ども基金ニュースレターNo.26 P2～P4



⑦ 2023 年 8 月 8 日 ロイター・ニュース・アンド・メディア・ジャパン株式会社



⑧ 2023 年 8 月 24 日 NBC ニュース

<https://www.nbcnews.com/nightly-news/video/treated-radioactive-wastewater-from-japan-s-fukushima-pumped-back-into-pacific-191547973531>

⑨ 2023 年 12 月 4 日 東京新聞



⑩ 2023 年 12 月 5 日 ジャパンプラットフォーム

<https://www.youtube.com/watch?v=la55ynqXb3g>

⑪ 2024 年 3 月 7 日 沖縄タイムズ社



以上、2023 年度認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちねの事業報告といたします。